

報恩講日程



「真宗門徒の一年は報恩講に始まり、報恩講に終わる」と言われます。
是非この機会にお参りください。

23日 (月)	13:30 (引続)	初逮夜 門徒法要 法話 畠山和千 氏
24日 (火)	7:00 13:30 (引続)	晨朝兼日中 逮夜 音楽法要 法話 畠山和千 氏
25日 (水)	7:00 13:30 (引続) 16:30 17:30	晨朝兼日中 中逮夜 法話 畠山和千 氏 おつとめ教室閉講式 初夜勤行・御伝鈔拝読
26日 (木)	7:00 13:30 (引続)	晨朝兼日中 逮夜 法話 武井弥弘 氏
27日 (金)	7:00 12:00 14:00 (引続)	晨朝兼日中 帰敬式 結願逮夜・同朋のつどい 信悟院殿御参修 法話 武井弥弘 氏
28日 (土)	7:00 9:30 10:30	結願晨朝 法話 武井弥弘 氏 結願日中 信悟院殿御参修 (12時頃終了予定)



報恩講とは

報恩講とは、宗祖親鸞聖人の御祥月命日に勤められる法要のことです。祖師の御祥月命日や御命日に報恩の仏事を勤めることは真宗独自のものではありませんが、真宗門徒にとっては一年でもっとも大切に中心となる仏事として勤められてきました。

私たちが生きていくうえには親の恩や師の恩など、いろいろなご恩があります。それぞれ大切なことですが、報恩講の恩とは、なにより親鸞聖人がいただかれた念仏の教えに遇い、自らが生きる依り処を教えていただいたご恩のことです。そのご恩に報謝し、いよいよ親鸞聖人が明らかにされた真実のみ教えを聞信し、共に念仏申す身となっていくことを誓うことが報恩講の大切な意味です。

音楽法要

札幌別院では毎年報恩講に音楽法要をお勤めしております。崇敬区域の御寺院の合唱団の方々や、札幌大谷高校の生徒のみなさんにもご協力頂き、大変華やかな法要となっております。



門徒法要

門徒法要はご門徒が中心となってお勤めする法要です。普段の法要では僧侶が勤める導師や鑿役、巡讃といった法要中の役割をご門徒が担います。

御伝鈔

『御伝鈔』は正式には『本願寺聖人伝絵』といい、親鸞聖人の曾孫である、本願寺第三代の覚如上人が撰述された絵巻物です。これは、宗祖親鸞聖人の伝記として最初のものであり、さらに親鸞聖人の御生涯を感銘深いエピソードを交えてなじみやすく述べられた点でも、画期的なものと評価されています。



◇講師紹介

23日～25日 畠山 和千 氏 (秋田県 浄慶寺)
講題「愚禿という名のり」

26日～28日 武井 弥弘 氏 (九州大谷短期大学副学長)
講題「人は何故教えを聞かなければならないのか」